

大豆情報 第1号

令和6年6月17日
JAむなかた
北筑前普及指導センター

～7月20日までに播種を

終わらせましょう～



ちくしB5号は、販売上の名称として、「ふくよかまる」と名付けられました！

近年、6月5半旬、7月1半旬、7月4半旬頃は降雨が少ない傾向にあり、播種作業のねらい目と思われます。今後の天気予報を確認し、特に排水不良のほ場は、播種の前に周囲溝を設置し、あらかじめ排水口とつなげるなど排水対策を徹底しましょう。

福岡管区気象台の6月13日発表の1か月予報は下の表のとおりです。

(1 週目) 6/15～21頃	(2 週目) 6/22～6/28頃	(3～4 週目) 6/29～7/12
前線や湿った空気の影響を受けやすいため、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。	前線や湿った空気の影響を受けやすいため、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。	平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

☆最近、梅雨明け後の乾燥害による出芽や生育の不良がみられます。乾燥害軽減のため、出芽後に暗渠栓を閉め、地下水位を高く維持することも有効です。

大豆栽培では、「適期に播種」することが重要です！「ちくしB5号」は6月下旬からの早播きも可能です。早めに作業計画を立てて、機械の点検、種子消毒などの準備をし、効率的な播種作業に努めましょう。

速やかに播種するためには、部分浅耕一工程播種を行うか、播種直前に耕起を行うようにしましょう。また、播種直後の冠水による出芽不良を避けるため、排水の良いほ場から順に播種するようにし、大雨が予想される場合は、降雨の1日前には播種を中断してください。冠水したほ場は、できるだけ早い排水をこころがけましょう。

1. 土づくりと施肥

★土づくりと施肥体系の見直しによって、高品質・高収量の大豆づくりをめざしましょう。

★問題点・・・JAむなかた管内の土壌は、有効態リン酸、カリ及び腐植（有機物）が少ない傾向。

★対策

①堆肥の施用、わらすき込みなどにより、根粒菌の活性化や地力向上を図りましょう。

②PKC30号（30kg/10a）または塩化カリ（15kg/10a）や粒状ようりん（20kg/10a）の施用により、リン酸とカリウムの供給に努めましょう。

（リン酸は結実を良くし、初期生育や根粒の着生を促進する効果がある。

カリウムは吸収量の60%が子実に移行するため、粒肥大効果があるが欠乏しやすい。）

③地力の低下しているほ場や、遅まきほ場では、高度化成550（30～40kg/10a）を使用して下さい。

2. 播種

播種時期	条間	株間	10a 当り播種量	播種深度
6月下旬～7月10日	70cm	25～20cm	3～4kg	● 基準 3cm 土壌水分が多い→浅く 土壌水分が少ない →やや深く (5～6cm)+鎮圧
7月11日～20日	70cm	20～15cm	4～6kg	
(遅播きの場合) 7月21日～31日	70～50cm	15cm	6～8kg	

3. 種子消毒

病害虫名	薬剤名	使用方法	使用量 (種子 10kg 当り)
紫斑病	キヒゲン	乾燥種子重量の1%粉衣	100g
ハト タネバエ	キヒゲンR-2 フロアブル	乾燥種子重量の2%塗沫	200ml

4. 雑草防除

★ホソアオゲイトウ、ホオズキ多発ほ場の防除体系例

大豆播種後出芽前 (7月上中旬) 大豆2～4葉期 (7月下旬～8月上旬) 大豆3～5葉期 (8月上中旬) 大豆6～8葉期 (8月中旬)

ラクサー乳剤 +フルミオWDG 全面土壌散布	アタックショット乳剤 ※莖葉全面散布	中耕・培土	バスタ液剤 畝間散布
------------------------------	-----------------------	-------	---------------

※ アタックショット乳剤は散布後、必ず薬害（一過性の葉の黄化症状）が発生

★アサガオ類多発圃場の防除例

大豆播種後出芽前 (7月上中旬) 大豆2葉期 (7月下旬) 大豆3～5葉期 (8月上中旬) 大豆4葉期以降 (8月上中旬頃)

サターンバアロ乳剤 +フルミオWDG 全面土壌散布	大豆バサグラン液剤 ※雑草莖葉散布 又は全面散布	中耕・培土	アタックショット乳剤 ※開花前までに莖葉全面散布 ★残存アサガオ類が多い場合は 大豆6～8葉期にバスタ 液剤散布 (畝間散布)
---------------------------------	--------------------------------	-------	---

◎使用薬量、使用時期等は、こよみを参考にしてください。

◎稲に対する薬害があるので、水田に隣接している場合は飛散に注意して下さい。

◎クリアターン乳剤は、できるだけ播種当日に散布をし、遅くならないように注意して下さい。

5. ネキリムシ類の防除

夜に幼虫が地表に現れ、大豆幼根を地表付近で切断します。

〔対策〕: ネキリエースKを播種時～本葉2葉期に10a 当り3kg 土壌表面株元処理します。

※誘引殺虫剤なので被害が発生してから散布して下さい。

施肥、生育期除草剤等については、大豆こよみを参照下さい。

※農薬登録状況：令和6年6月10日時点